

大麦管理情報 第1号(平成30年産)

排水対策の徹底と適期播種作業で苗立ち・初期生育確保！

1. 排水対策の徹底 ～稲刈り後すみやかに!!～

- ①稲刈り後、直ちに深さ30cm以上の額縁排水溝と7～8mの間隔で基幹排水溝を水が流れるように設置しましょう。
- ②水吐尻と排水口をしっかりとつなぎましょう。
- ③サブソイラを用いて心土破碎を行いましょう。
- ④ほ場を十分乾かしてから、10月15日頃までに播種しましょう。
- ⑤水口は、しっかり止めましょう。



水が流れるように、
 基幹排水溝は、高く、
 額縁排水溝は、低く設置

2. pHの矯正

- ・耕起前に石灰質資材を100kg/10a以上施用しましょう。
- ※土壌pHが低い(6未満)と雑草が繁茂しやすくなります。

3. 種子消毒

- ・薬剤による消毒⇒「ベンレート水和剤20」を種子粉衣(種子重量の0.5%粉衣)
- 【例】種子10kgに水200mlを加え湿らせてから、薬剤50gを加え粉衣しましょう。

4. 基肥の施用 ～播種様式の応じた施肥量を遵守しましょう～

施肥・播種様式	肥料名	施肥量(kg/10a)
肥効調節型体系のドリル播き	LP大麦48号	45
分施肥体系のドリル播き	BB特15号	32
分施肥体系の散播	BB特15号	40

施肥量は地力に応じて加減する。

雑草防除で初期生育を確保

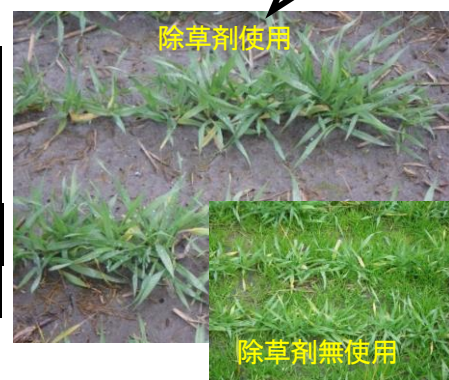
5. 播種時期と播種量

播種は10月上旬を中心に10月15日頃までに終わらしましょう。

- ①ほ場が十分に乾いた状態で、耕起から播種までの一連の作業を1日で行いましょう。
- ②播種時期に応じた播種量を守り目標苗立数を確保しましょう。

播種時期	目標苗立数 (本/m ²)	播種量(kg/10a)	
		ドリル播き	散播
9月26日～30日	140	6.0	6.5
10月1日～10日	150	6.5	7.0
10月11日～15日	200	8.5	9.0

※ドリル播きは、条間25cm、播種深度3cmを目安に播種を行う。



6. 雑草防除 ～連作ほ場や雑草の多いドリル播きほ場では、除草剤散布!!～

除草剤名	使用時期	使用量	使用方法	適用雑草
トレファノサイド粒剤 2.5	播種後出芽前	4～5kg/10a	土壌表面散布	1年生雑草※
トレファノサイド乳剤	播種後発芽前 (雑草発生前)	200～300ml/10a (希釈水量 100L)	土壌表面散布	1年生雑草※

※適用雑草において、ツユクサ、カヤツリグサ、キク・アブラナ科を除く

・種子が露出すると薬害の恐れがあるので、播種深度3cm程度、確実に覆土する。